

M&M2014 材料力学カンファレンス  
出張報告書

作成日：2014/8/17  
文責：同志社大学大学院  
理工学研究科 機械工学専攻  
構造工学研究室 M1 藤谷 亮平

学会名：M&M2014 材料力学カンファレンス

主催：(社) 日本機械学会

開催期間：2014年7月18日(金)から21日(月)(18日は見学会)

開催場所：福島大学金谷川キャンパス

研究題目：炭素前駆体へのガラス繊維の添加による C/C 複合材料の摩擦係数の温度依存性の低減

発表者：◎藤谷 亮平 小武内 清貴 大窪 和也 藤井 透

発表形式：講演(15分間)

学会 HP：<http://www.jsme.or.jp/conference/mmdconf14/>

私は2014年7月18日～21日に福島大学で開催された、日本機械学会主催のM&M2014材料力学カンファレンスに参加しました。下記にその詳細を記します。

《京都から会場へ移動》

発表日程が7月20日の10:00からであったので前日の7月19日の午前中に京都を出発し新幹線に乗り、福島駅へ向かいました。宿泊するホテルは福島駅付近でしたのでチェックインを済まし、その後会場となる福島大学金谷川キャンパスの下見に行きました。福島駅から福島大学金谷川キャンパスの最寄り駅である金谷川駅まではJR線で移動しました。

《M&M2014 材料力学カンファレンスに参加》

M&M2014 材料力学カンファレンスは機械工学とくにものづくりの基本の基である材料と材料力学分野の研究の視点から今後の我が国のものづくりの課題について議論をし、発信していくことを目的とする学会です。私は炭素前駆体にガラス繊維を添加した C/C 複合材料の摩擦係数の温度依存性に関する研究について発表しました。私はオーガナイズドセッション17(以下OS)に参加させていただきました。発表プログラムを見ていると特に複合材の衝撃挙動に着目した研究がおおくなされており、私の複合材の摩擦特性を題材にした研究にあまり興味をもっていないのではないかと心配していたのですが、発表後にはたくさんの質問をいただき少しは興味をもつていただけたのだと感ずることができ安心しました。また他の講演者の発表を聴講した中で感じたことは、発表スライドに動画やア

アニメーションを加えることによって発表内容の理解がより深まるということです。特に複合材に衝撃が加わった際に、どのように衝撃波が伝播してゆき破壊が進んでいくのかを動画とアニメーションを駆使して説明されていた発表がとても分かり易く、印象的でした。このように研究内容もさることながら、学会での発表テクニックのようなものも知ることができてとても参考になりました。

#### 《M&M2014 材料力学カンファレンス懇親会に参加》

7月20日の夕方から福島駅近くの福島ビューホテルでM&M2014材料力学カンファレンスの懇親会が行われました。会場にはおおよそ300名程度の参加者がおられ、お寿司をはじめとした豪華な料理がたくさんありました。その中でも福島名物でもある喜多方ラーメンがとても美味しかったです。懇親会では同OSだった方々を中心に研究等のお話をさせていただき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。

#### 《東日本大震災から3年、福島の現状》

今回、福島を訪れるということで東日本大震災から3年経った今、どの程度復興が進んでいるのか知りたと思っておりました。時間があれば福島のみならず他県にも足を運びその現状をこの目で確かめたいとおもっていたのですが、そのような時間を作ることができず後悔が残ります。学会に参加しておられた福島にお住まいの方とお話をさせていただく機会があったのですが、福島は地震による建物の倒壊、また津波による被害というのはあまり大きくなかったようです。現に、福島駅周辺また電車での移動途中に辺りの景色を見わたしていましたが、地震のつめ跡らしきものは残ってなかったように感じました。しかし、原子力発電所の事故による風評被害が福島の方々を苦しめているということをおっしゃっていました。やはり一度流れた悪い噂はなかなか払拭するのが困難であるようです。しかしこの状況を打開するために福島の人々は日々絶え間ぬ努力をされているということが今回の訪問でわかりました。炎天下の中、福島駅前の広場では地域の方々が特産品を必死にPRしておられました。また、今回参加させていただいた学会で配布された資料の中にも福島の特産品をPRするようなものがたくさんありました。このような地道な活動を継続し、またかつての活気ある福島県を取り戻してほしいと思います。私もこれを機にもう少し福島に関心を持とうとおもいました。

#### 《会場から京都に帰省》

学会の最終日(7/21)に大学で試験があったため、21日の午前中に福島を発ちました。あまり福島を満喫できなかったのが残念でした。午後4時過ぎに自宅に到着しました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった藤井先生、大窪先生および当研究室の皆様に深く感謝いたします。

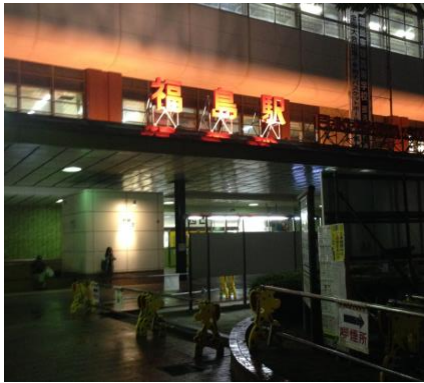


Fig.1 福島駅



Fig.2 学会参加



Fig.3 学会の様子



Fig.4 懇親会の様子